

1 iScheme のエディタの使用法

- 1) エディタを起動するための手続き名は `editor` であり、ファイル名 `file` (入力したプログラムを保存するファイル) を引数 (文字列とする) として評価する。

`(editor "file")`

たとえば、ファイル名を `chap-2.sc` とするならば、`(editor "chap-2.sc")` とする。

ファイル名を省略して、`(editor)` を評価してもよいが、そのときは、プログラムを入力した後で、「ファイル」プルダウンメニューの中の「名前を付けて保存」を選ぶこと。

Scheme のファイル名には `xxxx.sc` のように、末尾に `.sc` をつけるのが慣習になっている。



図 1: エディタの使用例

- 2) 新しいウィンドウが生成されるので、そこでプログラムを入力する。
- 3) プログラムを入力し終えたら、「ファイル」のプルダウンメニューの中から「上書き保存」を選択して保存する。(必要に応じて「名前を付けて保存」を選べばよい)。
- 4) 「Scheme」のプルダウンメニューの中から「式を評価」を選ぶと、保存されたファイルに含まれる式が処理系のもとで順に評価される。
エラーが生じたらそれらは処理系のもとで表示される。
- 5) エラーがないなら、処理系のもとで評価された式を利用する。
エラーが発生した場合には、デバッグ作業を行う。すなわち、プログラムの間違いを探して、修正しては、「ファイルの保存」，“式の評価”をやり直す。

2 作成済のファイルの評価

プログラムを入力したファイル `file` がすでに用意されている場合には、つぎのようにすればファイルに含まれる式が一括して評価される。

`(load "file")`